

濃飛横断自動車道(中津川工区)鳥類対策検討会
第16回 議事録(要旨)

日時：令和7年11月25日(火)
場所：自然学総合研究所

参加者一覧

出席者	大塚 之穂 西條 好迪	日本野鳥の会岐阜 顧問 (一財)自然学総合研究所 理事・顧問
事務局	塚田 晃大 裁 康将 他3名	恵那土木事務所濃飛横断自動車道建設課 濃飛横断自動車道建設第二係長 恵那土木事務所濃飛横断自動車道建設課 濃飛横断自動車道建設第二係 主任技師 株式会社オオバ

濃飛横断自動車道(中津川工区)鳥類対策検討部会 議事録(要旨)

議題	発言者	番号	意見の主旨	対応
1. 令和7年繁殖期の調査結果について				
	事務局		令和7年の現地調査等の実施状況や、新たに得られた情報を報告した。	－
	検討会委員	1	オオタカの繁殖成功が確認されたことから、事業による影響はなかったと判断できる。	－
	検討会委員	2	目視調査と地上ハンディビデオカメラの両方の調査を行ったことで、繁殖の状況がよく確認できた。	－
	検討会委員	3	今後、営巣地近くでの工事が始まれば、オオタカは周辺の他の棲みやすい場所に移動すると思われる。	－
	検討会委員	4	オオタカの寿命は10～15年であり、事業実施状況に大きな変化がなくても、オオタカが観察できなくなる場合がある。また、一時的にいなくなっても、そのまま林が残っていれば、また戻ってくる場合もある。	－
2. 今後の調査計画(案)について				
	事務局		今年度と同様に、3月に定点観察および繁殖状況調査を行い、繁殖兆候を把握する。その後、5月、6月、7月に定点観察・繁殖状況調査を行う計画とした。	－
	検討会委員	5	調査の時期や方法について問題はない。今年度同様に実施するとよい。	計画に基づき、調査を実施する。
	事務局		本調査は事業影響範囲内で繁殖が確認されているオオタカの生息状況確認を主目的とした調査であるため、サシバ等その他猛禽類についてはオオタカ調査の中で確認された個体を記録する方法で調査を進めることを考えているが、この調査方針について確認したい。	－
	検討会委員	6	サシバは現状の調査で観察できているため、サシバを対象とした追加調査の必要はなく、令和8年も同様の時期・同様の方法で実施すれば良い。	令和8年も同様の時期・方法で調査を実施する。
	事務局		昨年度の助言をふまえ、営巣地周辺における測量作業やボーリング調査はオオタカの繁殖時期を避けて実施しているが、その内容について確認したい。	－
	検討会委員	7	営巣林近くでのボーリング等の調査は、オオタカの繁殖時期を避けて実施できており、保全対策として問題ない。	いただいた意見を参考に対応する。
	事務局		次年度も、令和8年の調査結果を踏まえ、今後の調査や配慮事項について検討会に諮り意見を伺う。	－